



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

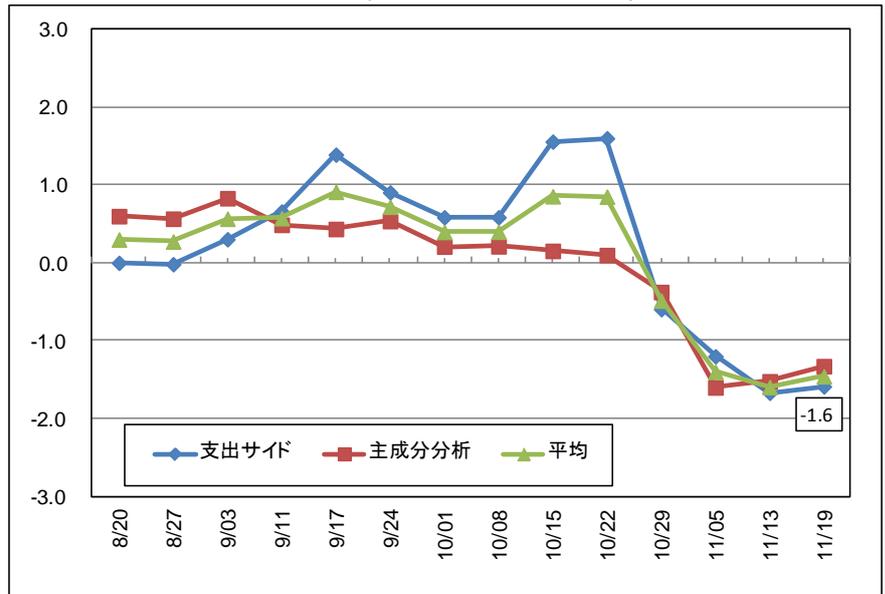
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年11月19日)

ポイント

- ▶今週の予測では 9 月の鉱工業生産指数(確報値)、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計が更新された。
- ▶今週の CQM は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を、内需は横ばい、純輸出は縮小するため前期年率-1.6%と予測。
- ▶一方、先行き 2013 年 1-3 月期に日本経済はプラス成長に復帰すると予測。純輸出が横ばい、内需が回復するためである。
- ▶9月の製造工業稼働率は2ヵ月連続で前月比悪化した。一部 China Risk の影響と思われる。
- ▶企業にとって稼働率の悪化は設備投資計画を後ずれさせるか削減への圧力となる。
- ▶9月の公共工事は4ヵ月連続の前月比マイナス。10-12 月期の公的固定資本形成はマイナスになる可能性が高いことに注意。稼働率低下による企業設備投資の抑制姿勢の高まりと政治空白による公共投資息切れは景気底割れリスクを更に高めよう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



＜大幅稼働率低下による企業設備投資抑制の高まりや政治空白は景気底割れリスクを更に高める＞

今週の予測で更新されたのは、9月の鉱工業生産指数(確報値)、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。新たな月次指標を更新したCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は横ばい、純輸出は縮小するため前期年率-1.6%と予測している。先週の予測(-1.7%)から小幅の上方修正である。先行きについて、CQMは2013年1-3月期に日本経済はプラス成長(同+3.2%)に復帰すると予測している。純輸出が横ばいとなり内需が回復するためである。

9月の製造工業稼働率指数は前月比-5.5%低下し、2ヵ月連続の悪化。業種別に見れば、輸送機械工業、一般機械工業、鉄鋼業で稼働率が大きく低下した。特に、輸送機械工業では8月同-1.0%から9月同-17.3%へと大幅の悪化となった。すでにエコカー補助金終了を想定して自動車工業は8月に稼働率を引き下げていたが、9月に大幅悪化したのは一部China Riskの影響と思われる。今後しばらくは中国の不買運動による輸出減少リスクが高まる。結果として、7-9月期製造工業の稼働率指数は前期比-5.3%低下し、2四半期連続の悪化となった。企業にとって稼働率の悪化は設備投資計画の実行を後ずれさせるか削減への圧力となる。CQMは10-12月期実質民間企業設備を前期比-0.9%と2四半期連続のマイナスを予測している。

9月の公共工事(建設総合統計ベース)は前年比+10.6%増加し、8ヵ月連続のプラス。ただ季節調整値(APIR推計)は前月比-0.9%減少し4ヵ月連続のマイナスとなっており、10-12月期の公的固定資本形成はマイナスになる可能性が高いことに注意。稼働率低下による企業設備投資の抑制姿勢の高まりに加え、政治空白(16日の衆議院解散)による公共投資息切れは景気底割れリスクを更に高めよう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550